

琉球大学学術リポジトリ

サトウキビN:Co.376について

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄農業研究会 公開日: 2009-01-29 キーワード (Ja): サトウキビ, 甘蔗, 品種比較試験, 徳之島, 沖縄 キーワード (En): N:Co.376, N:Co.310 作成者: 当, 安武, 作元, 照文, 元田, 徳広, Atari, Yasutake, Sakumoto, T., Motoda, T. メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002015201

サトウキビ N: Co. 376 について

当 安 武・作 元 照 文・元 田 徳 広

(鹿児島県農業試験場徳之島糖業支場)

はじめに

徳之島糖業支場では1961年11月九州農試種子島試験地から蔗苗5本を導入し、続いて1962年ナタールから蔗苗2本を導入増殖して1963年から品種比較試験に供した。第1回目の成績で非常に好結果が得られたので、早速現地委託試験に供試し、3年間に20カ所における試験結果を得た。その結果糖度や純糖率は N: Co 310に劣るが収獲基数多く、茎長も劣らず、株出能力もよく、その増収性が確認されたのでその大要を報告する。

1. 試験実施年次並びに場所

春	1963年	徳之島糖業支場
	1964年	徳之島糖業支場
	1964年	和泊町, 喜界町 (現地委託試験)
植	1965年	徳之島糖業支場
夏	1964年	徳之島糖業支場
	〃	知名町, 天城町, 笠利町, 喜界町 (現地委託試験)
	1965年	徳之島糖業支場
植	〃	与論町, 和泊町, 天城町, 瀬戸内町 (現地委託試験)
	1965年	南栄糖業 (沖永良部), 富国製糖 (笠利町) 会社提供

3. 試験結果および考察

第1表 特性調査

項 目 品 種	茎の色	茎の直径			株出	茎の形状	芽の形状	芽の大小	葉の形態	葉身の広狭	毛芽の多少	ろう物の多少	質の少	耐風性	耐干性	節の長短
		春	夏	株出												
N: Co 376	緑紫	2.08	2.37	2.18	円柱	小扁平	中	直	狭	少	多	強	中	長		
N: Co 310	淡緑	2.28	2.35	2.12	円柱	小扁平	中	直	狭	無	特多	強	強	長		

生育調査

項 目 品 種	原料茎長 cm			原料茎径 cm			原料茎数本			a 当しや茎重 Kg		
	春植	夏植	株出	春植	夏植	株出	春植	夏植	株出	春植	夏植	株出
N: Co 376	180	300	202	2.08	2.37	2.18	4.1	4.6	5.1	853	1732	1128
N: Co 310	171	291	179	2.28	2.35	2.12	3.1	3.7	4.0	639	1274	873

※ 1963~1965年の平均

春	1965年	徳之島糖業支場
株	〃	喜界町, 現地委託試験
夏	1965年	知名町, 喜界町 (現地委託試験)
株	〃	南栄糖業 (沖永良部) 会社提供

2. 試験の経過

1963年度のキビ作は、1962年12月下旬から1963年2月上旬頃まで例年にない烈しい寒波におそわれ茎葉は被害をうけ、サトウキビの伸長及び基数の発生は特に悪いようであった。

またサトウキビの伸長期の4月から7月にかけて異状干ばつで、サトウキビの伸長は悪かったが8月上旬から降雨順調で生育もやや挽回した。

1964年度は全期を通じて気象条件にめぐまれ特に4月以降サトウキビの伸長期にも降雨分布は比較的良好で収量は例年にみない多収を示した。1965年のキビ作は、1965年の生育前期即ち1月以降気温がやや低目で特に生育の旺盛な3月以降8月までも気温低く、その上7、8月の干ばつで例年に比べて生育悪く全般的に低収であった。

概要 (N: Co 310との比較)

- (1) 草丈の伸長は多少早く、収穫時の原料茎長も僅かに長い。
- (2) 茎径はほとんど変わらない。
- (3) 分けつ力旺盛で有効茎歩合も比較的高く収穫時の茎数も多くまた茎の揃いがよい。
- (4) ブリックスや糖度はやや低い。
- (5) 耐病、耐虫性はほぼ同程度のものである。
- (6) 耐干性は僅かに劣る。
- (7) 収穫跡の萌芽性よく株出収量も多い。

1966年 夏 植

項目 品種名	1966年 夏 植	
	植付後 10日目	20 日 目
N:Co 376	76.4%	89.4%
N:Co 310	88.5	96.2

第 2 表 発芽勢並びに発芽率。
(例) 1966年 春 植

項目 品種名	1966年 春 植		
	植付後21日目	25日目	30日目
N: Co 376	5.6 %	21.1%	55.0%
N: Co 310	7.8	27.8	57.2

発 芽 率

項目 品種名	1965年		1966年	
	夏 植	春 植	夏 植	春 植
N: Co 376	97%	93%	93%	92%
N: Co 310	90	90	97	94

春植並びに夏植における発芽は N: Co 310 とほとんど差はない。

第 3 表 奄美における作型別収量調査

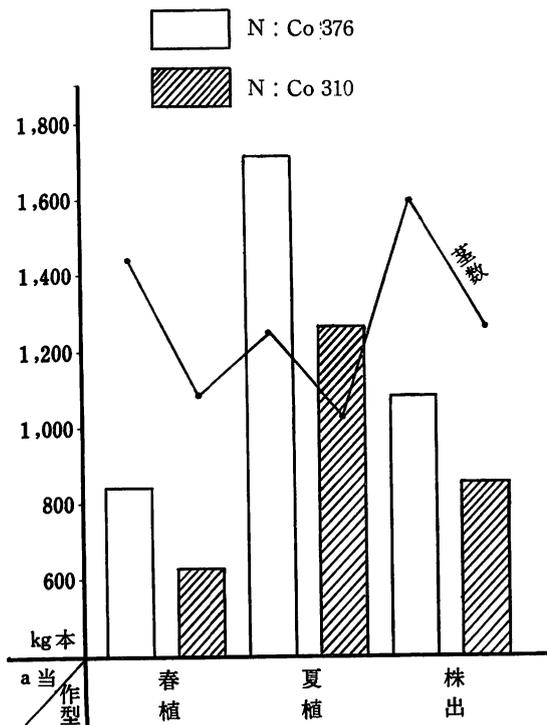
項目 品種	収穫時の茎長		差	収穫時の茎径		差	a 当茎数		比	a 当茎重		比	
	(A)	(B)		(A)	(B)		(A)	(B)		(A)	(B)		
	試験場所	N: Co 376	N: Co 310	(A)-(B)	N: Co 376	N: Co 310	(A)-(B)	N: Co 376	N: Co 310	(A)/(B)	N: Co 376	N: Co 310	(A)/(B)
春 植	1963年 徳之島支場	cm 182	cm 170	cm +12	cm 2.1	cm 2.2	cm - 0.1	本 1537	本 1086	% 142	kg 827	kg 637	% 136
	1964年 徳之島支場	158	144	+14	2.0	2.2	- 0.2	1522	1145	133	813	588	138
	1964年 和泊	237	228	+ 9	-	-	-	1634	1013	161	1318	786	168
	1964年 喜界	188	169	+19	2.2	2.3	- 0.1	1302	1110	130	670	566	118
	1965年 徳之島支場	136	143	- 7	2.0	2.4	- 0.2	1180	1114	106	637	647	98
	平 均	180	171	+ 9	2.08	2.28	- 0.2	1435	1094	131	853	639	132

夏	1964年 徳之島支場	296	293	+3	2.5	2.5	0	1420	1213	117	1750	1411	124	
	1964年 知名	321	289	+32	2.6	2.6	0	1192	808	148	2132	1396	153	
	1964年 天城	357	336	+21	2.6	2.6	0	1213	982	124	2031	1611	126	
	1964年 笠利	392	345	+47	2.7	2.6	+1	1205	983	123	2220	1373	162	
	1964年 喜界	361	331	+30	2.5	2.5	0	1283	908	141	1853	1185	156	
	1965年 徳之島支場	232	230	+2	2.2	2.2	0	1568	1167	134	1301	1116	117	
	1965年 与論	349	349	0	2.4	2.6	-0.2	1388	1018	136	2333	1697	137	
	1965年 和泊	229	236	-7	2.2	2.1	+0.1	940	1138	83	1257	1070	117	
	1965年 天城	213	238	-2.5	2.1	2.0	+0.1	1541	1361	113	1389	1283	108	
	1965年 瀬戸内	261	263	-2	2.2	2.2	0	1142	913	125	1531	1273	120	
	1965年 南栄糖業	286	293	-7	2.1	2.0	+0.1	1062	646	164	1495	831	180	
	1965年 富国製糖	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1490	1044	143	
	平均	300	291	+9	2.37	2.35	+0.02	1269	1012	125	1732	1274	135	
春 植 株 出	1965年 徳之島支場	198	155	+42	2.4	2.2	+0.2	1392	1200	116	1096	725	151	
	1965年 喜界	197	184	+13	2.0	2.0	0	1586	1506	105	908	912	100	
	平均	198	170	+28	2.2	2.1	+0.1	1489	1353	110	1002	819	122	
夏 植 株 出	1965年 知名	208	185	+23	2.3	2.3	0	1684	1169	144	1253	889	141	
	1965年 喜界	210	188	+22	2.0	2.1	-0.1	1699	1215	140	1116	780	143	
	1965年 南栄糖業	200	188	+12	2.15	2.03	+0.12	-	-	-	1269	1060	120	
	平均	206	187	+19	2.15	2.14	+0.01	1692	1192	142	1213	910	133	
春 夏	株 株	平 均	202	179	+23	2.18	2.12	+0.06	1590	1273	125	1128	873	129

第 4 表 沖縄における収量調査 (1965年 夏植成績)

試 験 場 所	項 目 品 種	a 当 茎 数		比	a 当 茎 重		比	摘 要
		A	B	A/B	A	B	A/B	
		N:Co376	N:Co310		N:Co376	N:Co310		
		本	本	%	kg	kg	%	
琉 球 農 試		1480	1120	132	1290	1030	125	標 肥
“		1060	1050	101	1632	1360	120	多 肥
“		1000	1140	88	1020	948	107	少 肥
第 一 製 糖		719	641	112	878	1043	84	
琉 球 “		1115	1250	89	1735	1237	133	
中 部 “		1010	925	109	1463	1375	106	
北 部 “		1140	1110	103	1440	1094	131	
久米島 “		715	680	105	924	821	112	
宮 古 “		1095	990	111	1326	1152	115	
平 均		1037	990	105	1301	1124	116	

第 1 図 作型別蔗茎収量及び基数



1. 茎長と茎径

収穫時の原料茎長は N: Co310 と大差ないが春植、夏植において 9 cm, 株出において 23 cm 程度長い。茎径は両品種間にほとんど差はないが春植においては N:Co310 より僅かに小さい傾向にある。

2. 原料茎重は明らかに N:Co310 より多く、春植において 32%, 夏植で 35%, 株出で 29% の増収を示している。また沖縄においても 1965 年夏植 (第一製糖) において 1 回だけ指数 84% があるのみで外 8 カ所の成績で常に増収していることからその増収性は確認される。

3. 以上のことから本品種は特に N:Co310 に比し基数の増加により増収が得られるものと見られる多げつ性の品種で、特に株出栽培において常に増収していることは生産費低減のため株出作率の高い現今において好適な品種と考えられる。

第5表 奄美各地における分析結果

	地域別	項目 品種	ブリックス		差	糖 度		差	還元糖		差
			① N:Co	② N:Co	① - ②	① N:Co	② N:Co	① - ②	① N:Co	② N:Co	① - ②
			376	310		376	310		376	310	
春 植	1963年 徳之島支場	度	21.05	22.24	-1.19	18.57	20.53	-1.96	1.21%	0.81%	+0.40%
	1964年 徳之島支場	度	19.20	23.30	-4.10	16.09	18.88	-2.79	0.61	0.46	+0.15
	1964年 喜界	度	19.05	21.01	-1.96	17.00	19.00	-2.00	0.31	0.30	+0.01
	1965年 笠利	度	16.56	17.33	-0.77	13.88	14.68	-0.80	0.55	0.66	-0.11
	1965年 喜界	度	19.20	19.66	-0.46	16.32	16.90	-0.58	0.18	0.11	+0.07
	平均	度	19.01	20.71	-1.70	16.37	18.00	-1.63	0.57	0.47	+0.10
夏 植	1963年 徳之島支場	度	19.30	19.70	-0.40	15.98	17.90	-1.92	1.14	0.99	+0.15
	1963年 笠利	度	17.22	17.95	-0.73	15.00	16.22	-0.22	0.31	0.43	-0.17
	1965年 徳之島支場	度	19.40	19.60	-0.20	17.86	18.10	-0.24	0.52	0.63	-0.11
	1965年 与論	度	16.90	21.13	-4.23	14.38	15.54	-1.16	※7.50	※2.16	※+5.34
	1965年 喜界	度	18.60	13.65	-0.05	17.00	16.50	+0.50	0.44	0.47	-0.03
	1965年 沖永良部	度	17.87	19.82	-1.95	16.14	18.12	-1.98	-	-	-
	平均	度	18.21	19.43	-1.27	16.06	16.90	-0.84	1.98 (0.60)	0.95 (0.64)	+1.03 -0.04
株 出	1965年 徳之島支場	度	17.75	20.60	-2.85	16.48	19.76	-3.28	0.83	0.58	+0.25
	1965年 喜界	度	19.65	20.70	-1.05	16.90	17.86	-0.96	0.30	0.19	+0.11
	1965年 沖永良部	度	18.15	19.25	-1.10	15.30	17.57	-2.27	-	-	-
	平均	度	18.52	20.18	-1.67	16.23	18.40	-2.17	0.56	0.38	+0.18

喜界は生和糖業，笠利は富国製糖，沖永良部は南栄糖業，与論は南島開発における分析結果による。

※ () は与論の還元糖を除いた数値

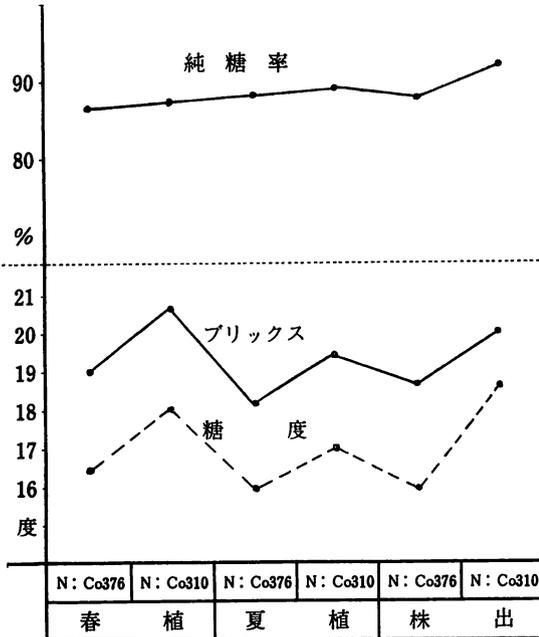
地 域 別	項 目 品 種	還 元 糖 比		純 糖 率		差
		① N:Co	② N:Co	① N:Co	② N:Co	① - ②
		376	310	376	310	
春 植	1963年 德之島支場	6.52 %	3.95 %	88.26 %	92.31 %	-4.05 %
	1964年 德之島支場	3.79	2.44	83.81	81.04	+2.77
	1964年 喜界	1.82	1.58	89.20	90.40	-1.20
	1965年 笠利	3.96	4.50	83.79	84.71	-0.92
	1965年 喜界	1.10	0.65	84.74	86.19	-1.45
	平 均	3.48	2.61	85.96	86.93	-0.97
夏 植	1964年 德之島支場	7.13	5.53	82.80	87.26	-4.46
	1964年 笠利	2.07	3.15	86.74	86.68	+0.06
	1965年 德之島支場	2.91	3.48	92.06	92.35	-0.29
	1965年 与論	52.16	13.90	85.09	89.10	-4.01
	1965年 喜界	2.59	2.85	91.40	88.47	+2.93
	1965年 沖永良部	-	-	90.26	93.09	-2.83
	平 均	12.33	5.62	88.06	89.49	-1.43
株 出	1965年 春 株 德之島支場	5.04	2.94	92.85	95.92	-3.07
	1965年 夏 株 喜界	1.78	1.06	86.01	86.28	-0.27
	1965年 夏 株 沖永良部	-	-	84.30	91.27	-6.97
	平 均	3.45	2.07	87.72	91.16	-3.44

第6表 沖縄における分析の結果

(1965年 夏植成績)

地域別	項目 品種	ブリックス		差	糖 度		差	還元糖		差	純糖率		差
		(A)	(B)	(A)-(B)									
		N:Co 376	N:Co 310		N:Co 376	N:Co 310		N:Co 376	N:Co 310		N:Co 376	N:Co 310	
琉球標	農試肥	21.50	22.80	-1.30	18.72	20.50	-1.78	0.041	0.033	+0.008	87.07	88.91	-2.84
	多肥	21.27	22.97	-1.70	18.90	20.43	-1.53	0.049	0.032	+0.017	88.86	88.94	-0.08
	少肥	22.97	22.37	+0.60	20.24	19.30	-0.94	0.039	0.033	+0.006	88.81	86.28	+2.53
第一製糖	製糖	17.82	19.72	-1.90	14.67	17.02	-2.35	0.053	0.049	+0.004	82.04	86.31	-4.27
琉球	〃	18.44	17.72	-2.28	12.74	15.63	-2.89	0.620	0.310	+0.310	82.51	88.54	-6.03
中部	〃	20.97	21.27	-0.30	17.90	18.23	-0.33	0.090	0.064	+0.026	85.36	85.71	-0.35
北部	〃	18.56	19.73	-1.17	15.06	17.06	-2.00	0.675	0.275	+0.400	81.17	86.43	-5.26
久米島	〃	17.93	19.15	-1.22	17.10	17.62	-0.52	0.160	0.110	+0.050	94.47	91.30	+3.17
宮古	〃	16.92	20.19	-3.27	-	-	-	-	-	-	86.70	88.86	-2.16
平	均	19.26	20.66	-1.40	16.92	18.23	-1.31	0.216	0.113	+0.103	86.33	88.03	-1.70

第2図 N:Co376とN:Co310のブリックス糖度純糖率の比較(奄美)



ブリックス

いずれの栽培型においてもN:Co310より低く、春植で1.7度、夏植で1.27度、株出で1.6度低い。

糖 度

喜界の1965年度夏植において0.5度高い外全試験区で低く、その差も春植で1.63度、夏植で0.84度、株出で2.7度とかなり低くなっている。また沖縄においても同様各試験において糖度が低く平均1.31度の差が認められていて低糖度は本品種の大きな欠陥とみられる。

純糖率

N:Co310より低く、特に株出栽培においてその差が大きい。沖縄においても同様低く、各栽培型を平均すると、沖縄、奄美ともにひとしく1.7度の差が認められる。

還元糖

いずれの栽培型においてもN:Co310より多い。還元糖比も大きく特に夏植と株出において大きい。

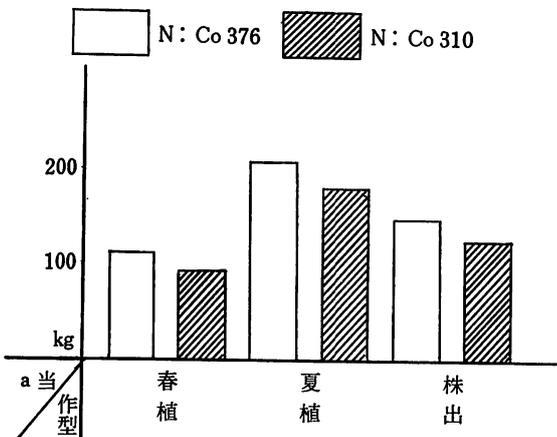
第 7 表 可製糖率並びに可製糖量

作 型	地 域 別	項 目 品 種 名	a 当茎重 kg		比 %	可製糖率 %		差 %	a 当可製糖量 kg		比 %
			① N:Co	② N:Co		① N:Co	② N:Co		① N:Co	② N:Co	
			376	310	①/②	376	310	①-②	376	310	①/②
春 植	喜 界	利	670	566	118	12.44	13.91	-1.47	83	79	105
		界	640	514	125	11.81	12.34	-0.53	76	63	121
		均	657	535	123	12.13	13.13	-1.00	80	71	113
夏 植	笠 喜 南 富 平	利	2220	1373	162	11.47	11.39	+0.08	255	156	163
		界	1853	1185	156	12.35	11.58	+0.67	227	137	166
		業	1435	831	180	12.53	14.54	-2.01	187	121	155
		業	1490	1044	143	10.12	11.02	-0.90	151	115	131
		均	1765	1111	159	11.59	12.14	-0.55	205	133	154
夏 株	喜 界	908	912	100	12.30	13.11	-0.81	112	120	93	
夏 株	南 栄 糖 業	1263	1060	120	11.64	14.03	-2.39	148	149	99	
春 株	喜 界	均	1116	780	143	12.30	13.11	-0.81	137	102	134
		均	1098	917	120	12.08	13.42	-1.34	132	124	106

第 8 表 平均しや茎収量並びに可製糖量

作 型	品 種 名	a 当茎重 kg		比	可製糖率 %		差	a 当可製糖量 kg		比
		① N:Co	② N:Co		① N:Co	② N:Co		① N:Co	② N:Co	
		376	310	①/②	376	310	①-②	376	310	①/②
春 植	植	853	639	132	12.13	13.13	-1.00	103	84	123
夏 植	植	1732	1274	135	11.59	12.14	-0.55	201	155	130
株 出	出	1123	873	129	12.08	13.42	-1.34	136	117	116

第 3 図 作型別平均可製糖量



可製糖率はN:Co310より低くその差は夏植<春植<株出で最も差の大きい 株出において 1.34%となっている。

春植 5 カ所, 夏植 12 カ所, 株出 5 カ所の各栽培型別平均しや茎収量と春植 2 カ所, 夏植 4 カ所, 株出 3 カ所の各型別可製糖率で検討すると可製糖量は春植 23%, 夏植 30%, 株出で 16%の増収となり, N:Co376の増収性が認められる。

第9表 株出における萌芽率並びに欠株率 (1965年)

地区別	項目 品種名	茎長 cm		差 cm	茎数 本		比 (%)	萌芽率及び 茎数 (%)		差 (%)	欠株率 (%)		差 (%)
		①	②	①-②	①	②	①/②	①	②	①-②	①	②	①-②
		N:Co 376	N:Co 310		N:Co 376	N:Co 310		N:Co 376	N:Co 310		N:Co 376	N:Co 310	
徳之島支場 与論 和泊 天城 瀬戸内 平均		144	162	-18	1167	1185	98	98.9	106.4	-76			
					(1606)	(1515)	(106)	(136)	(136)	(0)	0	0	0
		-	-	-	(1212)	(605)	(200)	(87.3)	(59.4)	(+27.9)	3.7	6.6	-2.9
		132	109	+23	998	926	108	106.2	81.3	+24.9	8.2	20.7	-12.5
		137	123	+9	1518	1218	124	98.1	89.5	+8.6	0	0	0
	164	190	-26	1103	1080	102	96.6	118.3	-21.7	6.4	2.8	+3.6	
	144	147	-3	1195	1103	108	100.0	98.9	+1.1	3.7	6.0	-2.3	
				(1409)	(1060)	(133)	(111.7)	(97.7)	(+14.0)				

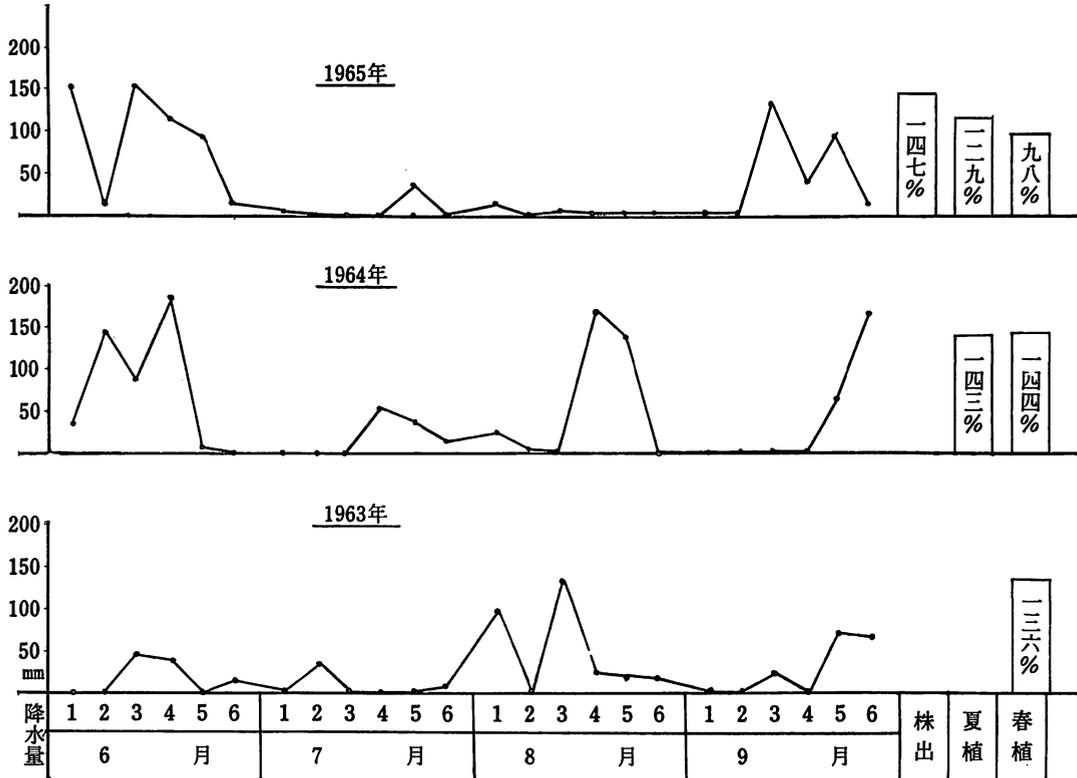
※ () は収穫後2ヵ月目の調査 その他は1966年8月における生育現況

収穫後の萌芽性はN:Co310にまさり欠株率も少ない。

第10表 降水量とサトウキビの収量

年次	月例	旬別及項目							計	収量 kg		①/② %
		1	2	3	4	5	6	① N:Co 376		② N:Co 310		
一九六三年	6月	13.0	2.0	56.0	37.0	4.0	21.0	133.0	春植	827	607	136
	7	3.0	33.0	1.0	2.0	0	9.0	48.0				
	8	93.0	13.0	133.0	24.0	16.0	19.0	303.0				
	9	0	12.0	30.0	1.0	67.0	61.0	171.0				
一九六四年	6月	33.0	157.0	90.0	186.0	9.0	0	479.0	春植	1997	1336	143
	7	1.0	3.0	1.0	55.0	35.0	13.0	408.0				
	8	28.0	3.0	3.0	175.0	143.0	0	352.0				
	9	1.0	0	3.0	3.4	62.7	175.2	245.3				
一九六五年	6月	164.0	10.0	162.0	113.0	97.0	14.0	565.0	春植 637	1123	873	147
	7	0	0	1.0	0	40.0	0	41.0				
	8	17.0	0	15.0	0	0	0	32.0				
	9	4.0	7.0	123.0	37.0	97.0	18.0	237.0				

第 4 図 年次別降水量と収量との関係N : Co376/N : Co310



干ばつ時における葉の萎ちよう現象はいくらかN:Co310より早いが、各年次の生育、収量等を検討してもその影響は明確でない。

1963年の干ばつ年にあっても30%以上の増収を示し1965年度もかなり酷い干ばつ状態であったが夏植、株出等大きく増収していることからN:Co310に比し特別に耐干性が弱いとは考えられない。

第11表 耐風性 (1965年)

折 損 茎 率 の 調 査

	夏 植	与 論	和 泊	天 城	瀬 戸 内
N:Co376	1.8 %	0	11.7 %	6.7 %	0
N:Co310	1.6 %	3.6 %	6.0 %	0.9 %	0
	春 植	株 出	知 名	喜 界	
N:Co376	2.6 %	1.7 %	0 %	1.8 %	
N:Co310	0	0	0	0	

上記折損茎数から耐風性は僅かにN:Co310に劣るようにも見られるが大差はないものと思われる。

第12表 耐病性

1. モザイク接種試験成績

接種日	接種原	接種植物	接種法	供試 個体数	調査日	結果 (発病個体数)
1965年 5月2日	黄色条斑 N:Co 376 の水添加磨砕汁	N:Co 310	カーボランダム法	5	1965年 6月2日	0
〃	〃	トウモロコシ	〃	5	〃	0
〃	磷酸緩衝液 添加磨砕汁	N:Co 310	〃	5	〃	0
〃	〃	トウモロコシ	〃	5	〃	0

ほかの、モザイク病は上記いずれの方法でも100%伝染した。

2. 南アフリカでの主要病害に対する抵抗性

南アフリカ砂糖協会試験場

1967年5月 第3号誌

品 種	耐 性		防 染 性						
	矮化病	Mosaic	Mosaic	Stylak	枯葉病	ゴム病	黒穂病	赤腐病	さや枯病
N : C o 3 7 6	○	○	●	●	●	○	○	●	○
N : C o 3 1 0	○	○	○	●	□	△	○	●	●

耐性：すでに感染しても収量に大きな減収を生じない

○：非常に耐性に乏しい

◎：耐性に乏しい

●：耐性あり

感染性：容易に感染し難いもの

△：非常に感染し易い

□：感染し易い

○：中 庸

●：明かに抵抗性

◎：抵抗性あり

●：非常に抵抗性

3. 葉焼病に対する抵抗性

大島支場

1965年5月30日 調査

品 種 名	発 病 程 度	備 考
N : C o 3 7 6	+ +	徳之島糖業支場の夏植品
N : C o 3 1 0	+ +	種比較圃で調査したもの

以上を総合して現在栽培されているN:Co310とN:Co376とは主要病害については大差ないものとみてよいと考えられる。

第13表 出穂率

(1) 年度別出穂率

品 種 名	年 次				
	1964年 夏	1964年 春	1965年 夏	1965年 春	1965年 株出
N : C o 3 7 6	9.0 %	15.8%	27.2%	2.0%	48.0%
N : C o 3 1 0	5.1	43.6	29.3	2.0	35.1

(2) 栽培型別出穂率 (平均)

品 種 名	型 別			株 出
	春	植	夏	
N : C o 3 7 6	8.9%		18.1%	48.0%
N : C o 3 1 0	22.8		17.2	35.1

出穂率はN:Co310とほとんど変わりなく平均概収20%程度の出穂である。

4. 調 整 の 難 易

サトウキビの生産費中収かく労働費の占める%は極めて大きく調整の難易は品種選定上大きな条件の一つと考えられるがN:Co376はしや茎ほぼ直立し揃いもよく脱葉の難易はN:Co310と変わらないものと見られる。

以上総合してN:Co376は増収性は認められるが糖度が低く、可製糖率も低いのでこれが加工面に及ぼす経済性等が奨励品種選定上大きな問題と考えられる。

参 考 文 献

- 1 南米糖業 1965 夏植甘蔗品種比較試験成績
- 2 富国糖業 1965 夏植甘蔗品種比較試験成績
- 3 琉球農業試験場 夏植甘蔗品種比較試験成績
- 4 農試大島支場 松田氏 1965 モザイク接種試験成績
- 5 _____ 1965 葉焼病に対する抵抗性
- 6 南アフリカ砂糖協会試験場 1957年5月 第3号誌